

事例研究報告

特別支援学校小学部児童の 給食の摂取量を増やすための支援

対象児童の実態

- ・小学部児童
 - ・歌絵本で童謡を聴くことや、教員と一緒に歌うことが好き。
 - ・カードや言葉(語頭)を使って要求を伝えられる。
 - ・「いや」と言って活動を拒否することがある。
 - ・周囲の環境に刺激を受けやすく、気になるものを見つけると衝動的に動き出すことがある。
-
- ・食事について
- 家では食べるが、給食は嫌がる。
- (入学時は食べなかった。1口毎の歌絵本で食べることができるようになっていたが、昨年の2月頃から再び拒否が始まった。)

給食時の様子

4月

- ・教員が一口大すくい食べさせる。
- ・歌絵本なし。食べたら教員が本児の好きな歌を歌う。
⇒拒否が続いた。

6月

- ・給食にとろろをかける。(家と同じ方法で実施)
- ・給食の一口スケジュールを提示。
- ・ご飯を5口食べたら歌絵本で遊べるルールを設定。
⇒変更当初は食べていたが、徐々に拒否が増えた。

【拒否行動】

食べたくない時は、差し出したスプーンを払いのける。
拒否が続くとスタイルを外したり、離席しようしたり、
机を蹴ったりする行動が見られた。

保護者の願い

- ・食べられる物が増えてほしい。
- ・食事を楽しんでもらいたい。

教員の願い

- ・食べられる量を少しでも増やしたい。
- ・食べて「美味しい」「楽しい」と感じてもらえるようになってほしい。

アドバイザーからの課題提起①②を受けて 学部全体で事例検討

課題提起①「何を目標とするか？」

→ まず食べる量を増やす。

課題提起②「そのための解決策は何か？」

→ 好子の特別感をアップさせる。

自分でスプーンを口まで運ぶ。

食べたい物を食べる。



介入① 歌絵本(好子)を給食に限定する

歌絵本のご褒美を…

Before



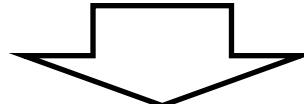
休み時間と給食時

After



給食時のみに限定

歌絵本の特別感アップ！！



摂取量の変化はなし。
歌絵本をよく見る等の変化が見られた。

介入② 自分でスプーンを持って食べる

Before



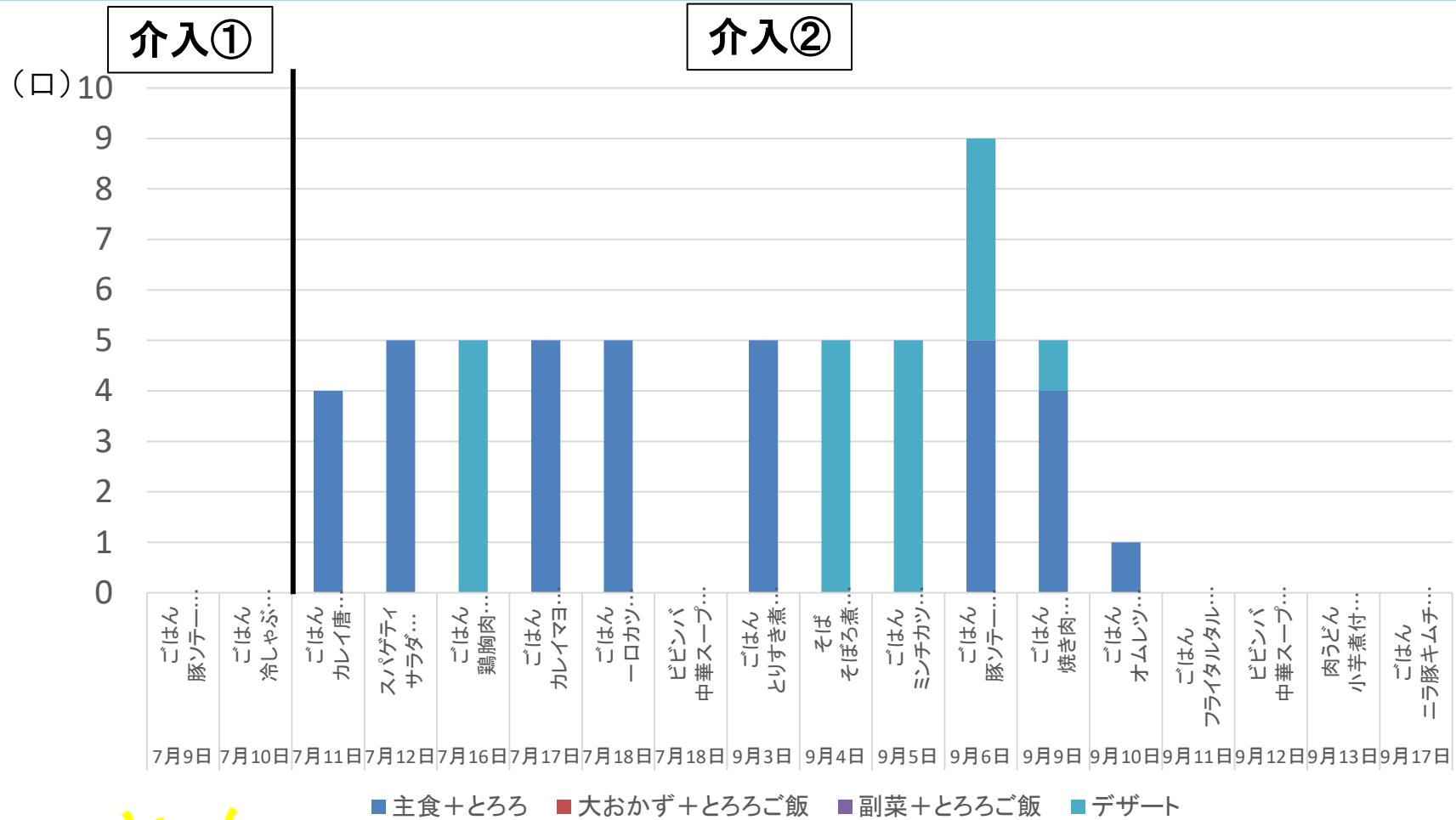
After



皿に置かれた  を自分で持つて食べる。



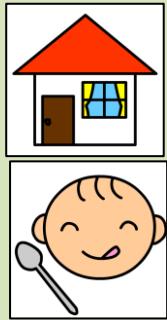
介入②：自分でスプーンを持って食べる



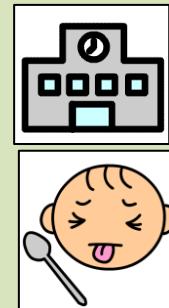
自発性アップ！
手で払いのける、机を蹴る等の行動ダウン
しかし、9月に入ると食べられない日が増えた。

介入③④ 食べる物をもっと好きな物にする

【介入③】



家で食べているものを
もってきてもらう。



給食と同様に拒否

「もっと好きなものはないか…？」

【介入④】

咀嚼のしやすさ
飲み込みやすさ
口までの運びやすさ

OK

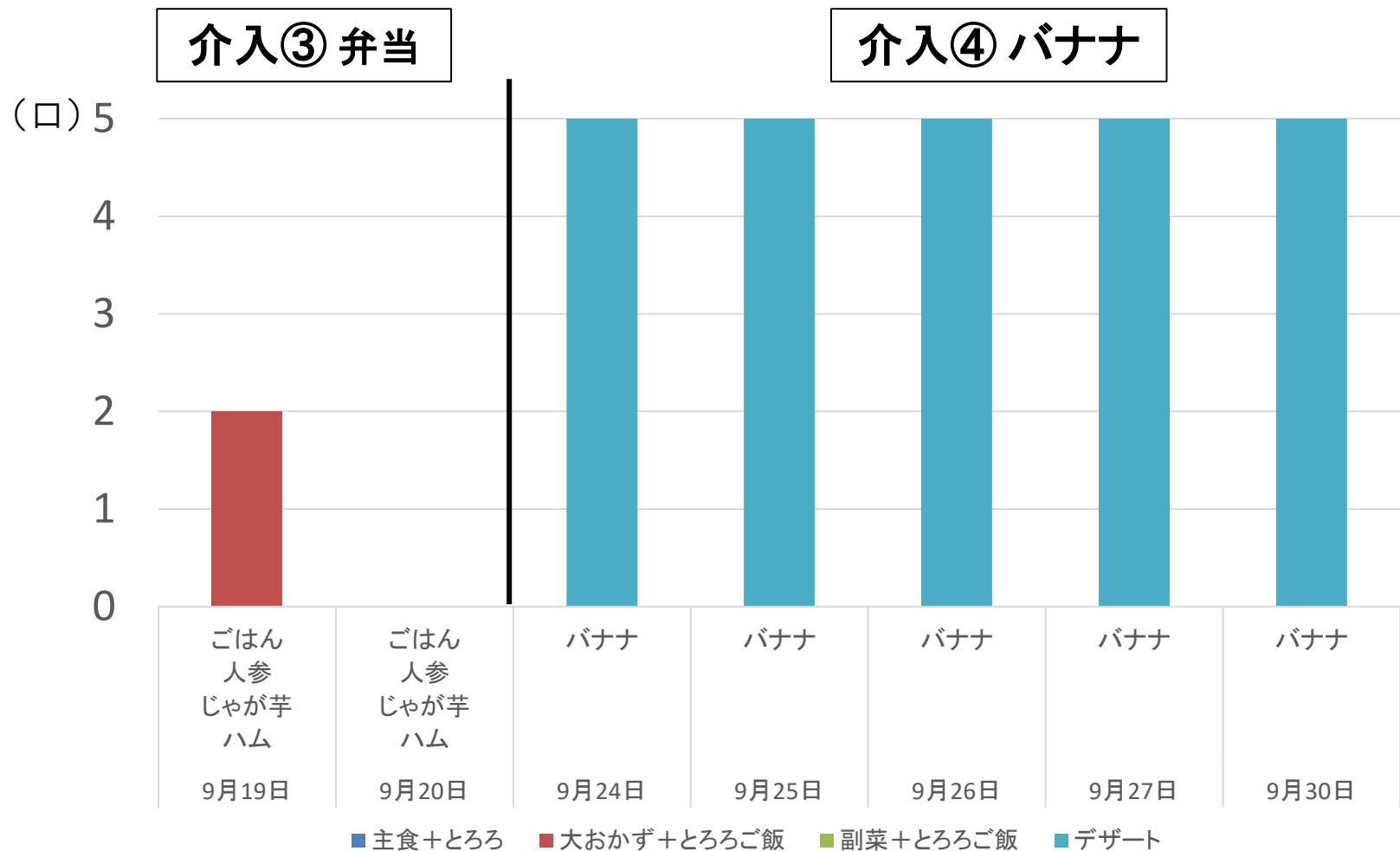
OK

OK



バナナ

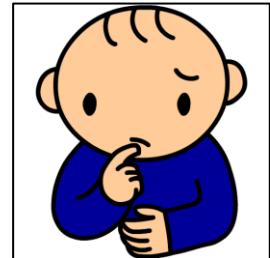
介入③④ 食べる物をもっと好きな物にする



介入③では拒否が強かった。
バナナに変更後、毎日5口食べることができた。

クラスで話し合い① 摂取量をどう増やすか？

5口から食数を増やしたいが……



ご褒美が遠のいて意欲が減る？

⇒ご褒美までを5口→3口に変更

⇒3口毎に歌絵本タイムを1分設定

ご褒美までの間隔を短くして意欲キープ！

【介入④】バナナを5口食べる。



【介入⑤】バナナを6口食べる。

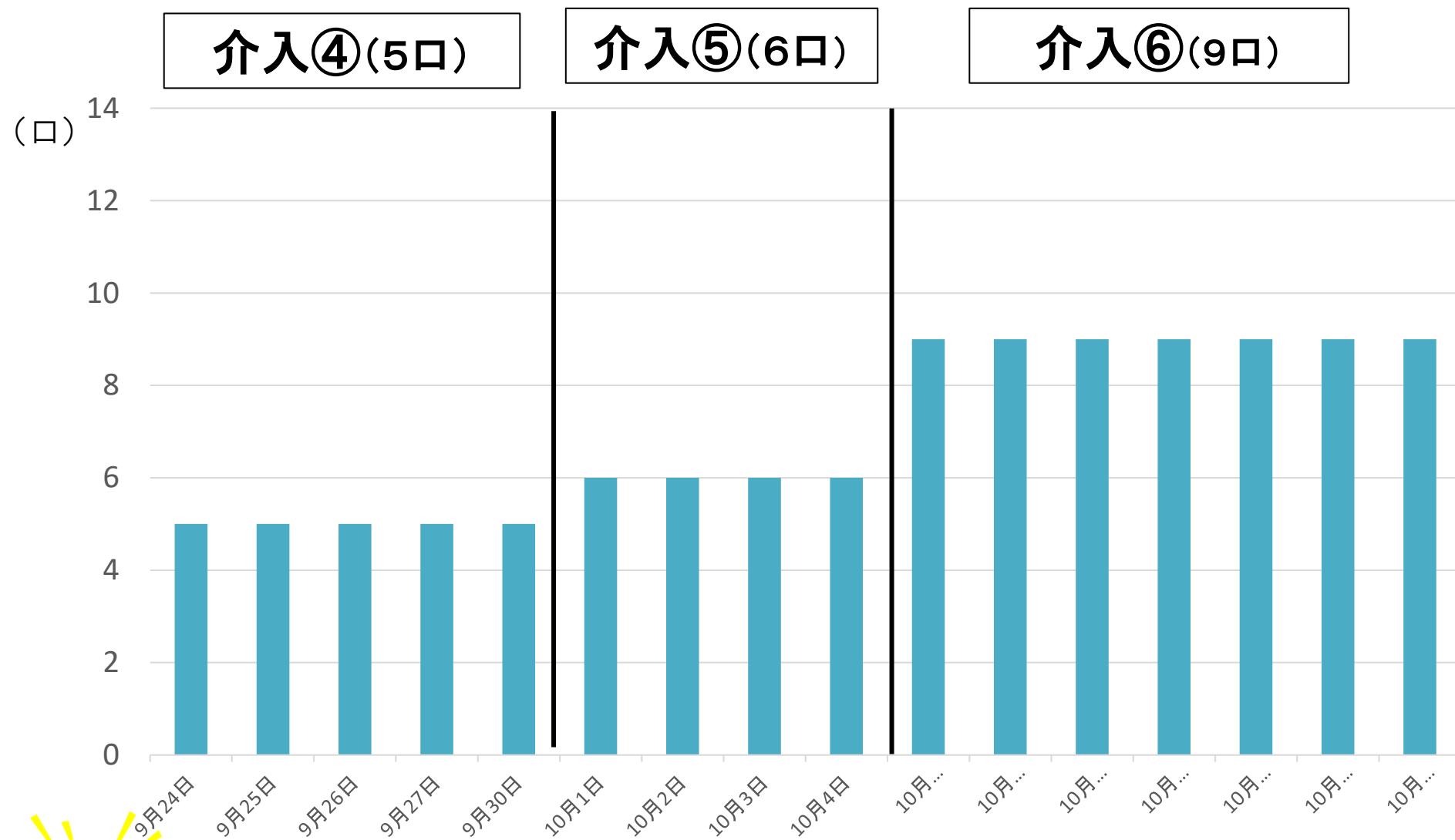


【介入⑥】バナナを9口食べる。



3口食べたら歌絵本だ♪

介入⑤⑥ 摂取量を増やす



5口→9口食べられるように！(バナナ1本分)

クラスで話し合い②③ 食べる物を増やす

②「好子に近づくほど、意欲アップの傾向がある」

【介入⑦】最後の9口目を枝豆に変更。

食材は保護者と相談



食べられた!!

③「他の物を食べてほしい。バナナの摂取量も維持したい」

⇒3口ずつ増やす+違う食べ物を追加する

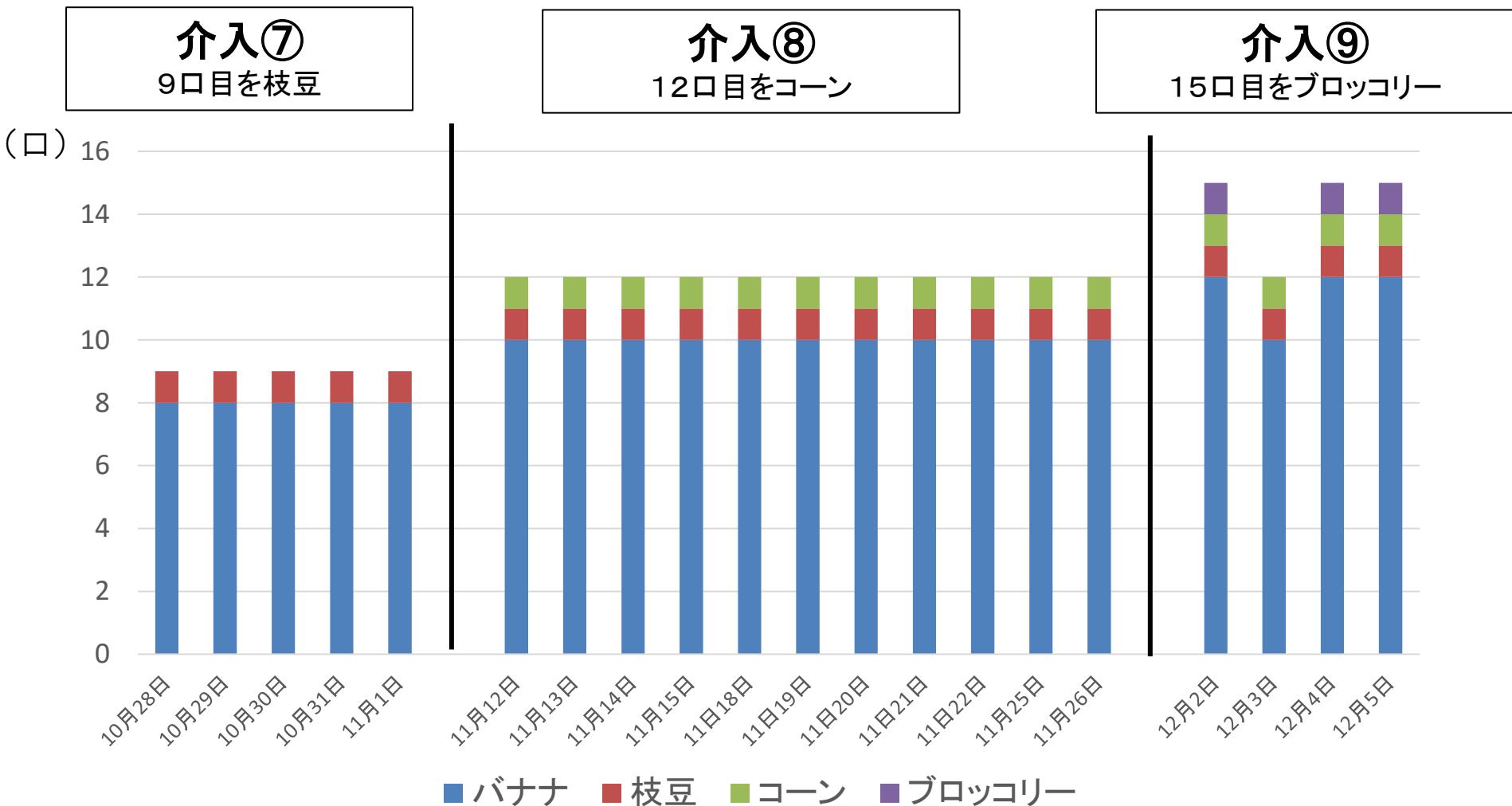
【介入⑧】12口食べる。12口目をコーンに変更



【介入⑨】15口食べる。15口目をブロッコリーに変更



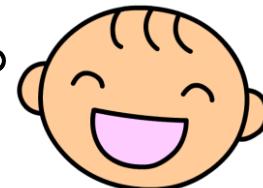
介入⑦～⑨ 食べる物と摂取量を増やす



枝豆、コーン、ブロッコリーも食べられた！
バナナの摂取量もキープ！

指導の成果

- ①摂取量を増やすことができた。
- ②自分でスプーンやフォークを口に運んで食べ
くことができるようになった。
- ③成功体験を積むことで給食時にも笑顔が見
られるようになった。



ここが成功のポイント

①好きな物で意欲UP！

→本人の好みに合わせて食べやすい物を選び、成功体験を積めた。

②好子のタイミングの調整

→歌絵本で遊べるタイミングを工夫し、やる気を引き出せた。

③保護者の協力

→食事の様子を見てもらい、進捗状況を共有することで、給食の停止や弁当準備等の協力を得られた。

④学部全体での取り組み

→クラスだけでなく学部全体での話し合い、多様な意見から新たなアイデアが生まれ、共通理解が深まった。